



少しずつ学校や町を綺麗に。

1学期に続き、2学期でも理科を通して環境教育を行っています。大きなプロジェクトとして、「大学訪問」「環境ディスカッション第2弾」「ゴミ箱設置」「ポイ捨て防止ポスター作成」「NBCラジオ訪問」「World Environment day イベント」を行いました。少しずつですが、学校や町のポイ捨ての量が減ってきているように感じます。大きな変化は見られませんが、一人でも多くの人のポイ捨てを止めるきっかけを作れると良いなと思います

【動物についてもっと知るために！大学訪問！】

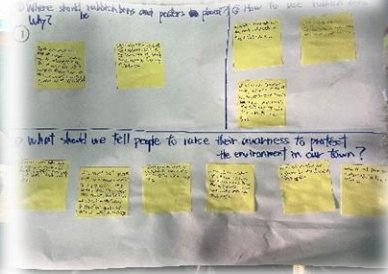


① ポポンデッタ市には、畜産と農業を専門とする大学があります。そこで、「Lyfe cycle of animal」について学んだ子どもたちが、実際に動物と触れ合ったり、大学の職員の話聞くことで、さらに理解が深まると思い、訪問を実施しました。中々見ない動物たちには「しゃぎ」、興味津々な子どもたちでした。



もちろん、はしゃぐだけではなく、話を聞いてメモを取り、課題を完成させます。

【ゴミ箱設置に向けて会議！】



② ゴミ箱設置に向けて、「ゴミ箱設置場所」「ゴミ箱使用上のルール」「市民の環境を守る意識をどう上げるか」について議論しました。ゴミの設置場所は人通りの多いスーパーの前やメイン道路と考え、使用ルールでは3Rを考えて「空き缶」は別に集めるべきではないかと意見が出ました。意識向上のために、ポスターやラジオを通して、多くの人に自分たちの学んだ土壌汚染の危険や防止対策を伝えるべきだと考えていました。彼らの考えをもとに、ポスター作成やラジオ訪問を計画しました。

【ドラム缶を再利用しゴミ箱へ！】



スクールカラーの黄色と緑にペイントし、児童が作成したポスターを貼りました。

③オロ州はパーム油という植物油を生産するアブラヤシの林が多く、その生産量も国内トップクラスです。州内には、「Higa Tru Oil Palm」という会社があり、そこでアブラヤシの生産、工場の経営やパーム油管理・輸出などを行っています。世界一生産性が高く安価なことから様々な食品や日用品に使用されているパーム油である一方で、熱帯雨林の伐採と関連が深く、環境破壊や社会問題を引き起こす原因ともなっています。会社内には環境保全に関する部署も存在し、生産しながら環境を守っていく方法を模索しているようです。

そこで、その部署の方と相談しパーム油を保管するために使用するドラム缶を、ゴミ箱として再利用できないかと考えました。マネージャーの方々は快く引き受けてくれ、9個のドラム缶をゴミ箱へ生まれ変わらせることができました。学校に5個、町に4個のゴミ箱を新たに設置することができ、設置した町の通りはポイ捨てによるゴミの量が劇的に減りました。今後もゴミ箱を増やせたらと考えています。

【ゴミはゴミ箱へ！環境啓発ポスター！】



④ PNG の子どもたちの芸術力は素晴らしく、ポイ捨て禁止に繋がる創造力豊かなポスターが作成されました。作成したポスターは、ゴミ箱に貼ったり、町や学校の壁に貼ったりしました。

【お知らせ】

“共に生き、共に働く”姿 —テレビ番組で紹介された協力隊の挑戦！



オロ州にある小学校の4年生50名が、環境学習の一環として「トラッシュアート作品」を作成しました。身近なごみを材料とすることで、環境問題について楽しく学び、行動を見直すきっかけとすることをめざした活動です。

この取り組みを中心として支えたのが、同校に派遣されている海外協力隊・新木祐厚員（青少年活動）です。新木厚員は、日頃から算数や環境教育を通じて児童の主体的な学びを促しており、今回の活動でも授業、ビーズ清掃、作品制作の全てに関わりました。



未来につなぐ環境教育 アートでゴミ問題を考える。
| 海外での取り組み - JICA (JICA HP)

『JICA 海外協力隊世界日記』

PNG のテレビやラジオに出演しました。

“共に生き、共に働く”姿 —テレビ番組で紹介された協力隊の挑戦！ | パプアニューギニア便り(パプアニューギニア事務所) | JICA 海外協力隊の世界日記

3名のJICA海外協力隊員がNBCラジオに出演！ | パプアニューギニア便り(パプアニューギニア事務所) | JICA 海外協力隊の世界日記



@bridge_png_jpn
(動画&写真見るなら、Instagramのアカウント)